

中央材料部



1. スタッフ

部長（教授）	福島 聰 ふくしま さとし
副部長（准教授）	生田 義浩 いくた よしひろ
看護師長	藤本 陽子 ふじもと ようこ
看護師	松田 貴恵子 まつだ きえこ
外部委託	洗浄・滅菌 27名
医療材料・物流	11名

2. 部の特徴、診療内容

材料部は、再生器材の洗浄・滅菌および医療材料を全診療科に供給している。再生器材の一元管理を継続し感染防御の貢献している。滅菌の保証は、検証を得ながら恒常に患者に提供できるシステムを構築している。具体的な業務は、以下に示す。

- ① 再生器材（業者持込器械も含む）の洗浄、消毒、滅菌
- ② 高圧蒸気滅菌装置の定期的検証の実施
- ③ 内視鏡の洗浄・消毒・滅菌
- ④ 医療材料の定数管理
- ⑤ DMAT バック 3個、災害用カート 10台、専用救急カート 1台の管理（年1回、物品入換）
- ⑥ 経理課物品調達と協働し、院内採用医療材料と消耗品の効率的な供給

3. 活動体制

○再生器材の洗浄・消毒・滅菌

診療科で使用した再生器材は、材料部が一次洗浄・消毒の一元管理を実施。「医療現場における滅菌保証のガイドライン 2021」に沿って、適切な洗浄と滅菌を選定している。高圧蒸気滅菌装置の検証は、患者に安全な器材提供をより確実とした。

○内視鏡の洗浄・消毒・滅菌

部署、外来、光学診療部の内視鏡は、全て材料部が洗浄・消毒または滅菌している。耳鼻科外来は、その場で洗浄・消毒を行い、患者に円滑な検査ができる診療支援を提供している。

○滅菌医療材料の管理供給

材料部管理器材と滅菌ディスポーザブル製品の補充は、原則、「定数定時交換方式」で週1～2回、補充している。部署への定数変更の提案と変更は、使用実績に基づき実施している。

○在宅医療物品は、依頼期日までに患者毎に揃え各診療科へ配達している。

4. 活動実績

- (1) 再生器材の払出は 45 部署（病棟・中央診療等、外来）
- (2) 年度の滅菌、消毒器材処置数（±前年度）

1) 貸出し滅菌器材数	122,366 (-3,173)
2) 委託滅菌器材数	82,310 (-13,825)
3) 洗浄消毒器材	81,681 (-4,489)
4) 手術用器材コンテナ	18,449 (+447)
5) 手術単品	74,463 (+3,197)
6) 業者持ち込み器械	3,990 (+238)
7) 内視鏡洗浄・消毒	9,649 (+1,276)
8) 耳鼻科軟性鏡洗浄・消毒	8,398 (+238)

5. その他

1) 設備更新

次年度のコ・ストラクカート、プロセステーブル更新は、12 部署予定。各部署の医療材料の配置と要望も含め購入台数を決定した。

- 2) 前年度の滅菌器材使用期限 12 ヶ月延長変更是、期限切れ数 1,392 本から 70 本に減少 (94%) した。
- 3) 生検セット（外来 G 専用）の作成は、基本セットで使用しない器材 4 点を省いて作成した。未使用滅菌器材が 3,280 本減少した。
- 4) 2022 年 5 月に医療器機学会が発行した「滅菌保証のための施設評価ツール」に沿って、患者に安全な器材を恒常に提供できるよう洗浄と滅菌の検証を段階的に実施、標準作業手順書の見直しを行っている。

6. 洗浄器と滅菌装置の稼動回数（±前年度）

- ① 単槽自動洗浄機 8 台 : 13,658 回/年 (-518)
- ② 高圧蒸気滅菌装置 4 台 : 3,385 回/年 (+244)
- ③ 酸化エチレンガス滅菌装置 2 台 : 245 回/年 (-10)
- ④ 過酸化水素低温ガスプラズマ滅菌装置 2 台 : 959 回/年 (-78)
- ⑤ カート洗浄装置 1 台 : 2,541 回/年 (+48)
- ⑥ 真空超音波洗浄 1 台 : 591 回/年 (+88)
- ⑦ 軟性鏡洗浄器 2 台 : 1,136 回/年 (-15)

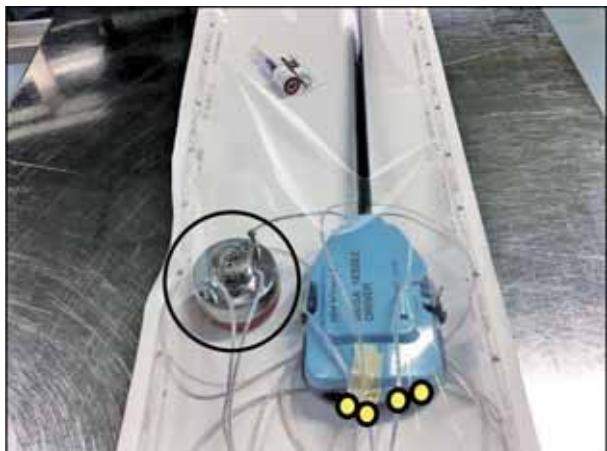
7. 高圧蒸気滅菌の検証(バリデーション1回/年)

滅菌剤（飽和蒸気）が装置内の器材まで到達したのかどうかは、装置の定期点検、性能検査、インジケータ判定では、滅菌の保証は得られない。

「滅菌の保証」を取得するには、滅菌困難な器材に、滅菌条件の時間、温度、圧力を調査するセンサーを装着、分析し証拠を得なければならない。この調査とインジケータ等を含め総合的判断で「滅菌の保証」が確立される。

以下に、検証の様子を紹介する。

- ① 滅菌困難な器材にセンサー各4箇所装着 BI, CIを入れる（黄色はセンサー位置）



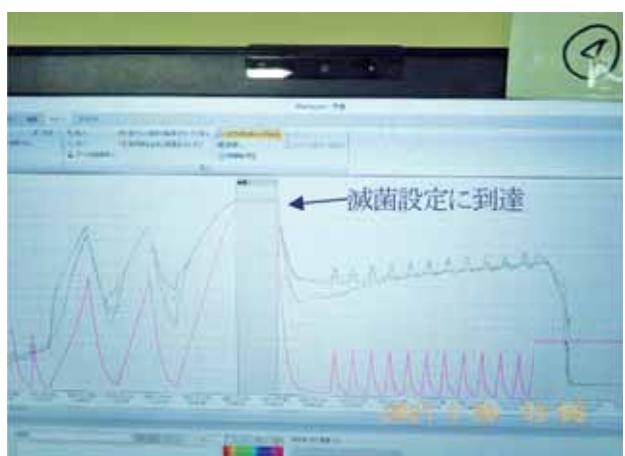
- ② 最大積載した台車にセンサー装着した器材を3箇所配置し通常滅菌（黄色枠が該当器材）



- ③ 滅菌後、センサーを取り出しパソコンにデータを抽出（温度、時間、圧力）



- ④ ③で抽出したデータをグラフ化
器材まで、滅菌設定の135度、10分、圧力220前後到達を確認。滅菌の品質性能が恒常的に確保できていると証明を得た→患者に安全な器材提供となる



- ⑤ ①～④を3回繰り返し実施、その結果を記録に残し保管する